

(北山地区) HIS との包括連携協定について

意見要旨	説明・回答要旨
今年 HIS と包括連携協定を結んで、人材を受け入れていると思うが、現在どういったことに取り組まれているのか。	(企画部長) 包括連携協定を結んだ HIS から職員が 1 名派遣されている。業務の内容については、観光の視点で茅野市を知っていただきながら、関係人口・交流人口の創出に向けて観光地でのウェルネス・テレワークなど、協定で記された内容について、プログラムを組んでいる段階。 (市長) デジタル田園健康特区へのエントリーなどを通したシティプロモーションによって、現在様々な企業からこういったお声がけをいただいている。 国の補助や企業との連携をしていく中で、しっかりと市民の皆さんに還元できればと考えている。 (地域創生政策監) 市長も申し上げたとおり、地域の課題に対して、DX により解決を目指すデジタル田園健康特区に採択されたことで、ベンチャーや IT など様々なジャンルの企業から提案をいただいている。企業は特区である茅野市にデジタルでの課題解決の提案を行うことで、国からの補助を受けながら実証を行い、様々な規制の緩和を目指している。
一定の方向性が出るのは、いつごろか。	(企画部長) 職員が派遣されて半年が経過して、今後プログラムを形にしていく予定なので、皆さんにお示ししていきたい。

(北山地区) 上下水道の広域運営について

意見要旨	説明・回答要旨
水道の維持管理はお金がかかるので、市の単独でなくて、広域下水道のように近隣市町村で協力して水道を管理できないか。	(市長) おっしゃるとおりだと思います。 6市町村合併が破綻してから今まで、話し合いしておくべきだった内容だが、今やっと話し合いのテーブルを設ける事が出来た段階。引き続き議論を重ねていく。 (副市長) 全国的に水道の技術者が不足しているので、国も広域連携を推奨している。 6市町村共同で公金を管理することは難しいと思うが、民間を活用したり、県の技術者支援を活用したりして、垂直補完、水平補完を意識して話し合っていきたい。 下水道については、民間で運営をしていく方向で国とも協議している。

(北山地区) 山林の維持管理について

意見要旨	説明・回答要旨
山林の管理について、所有者の高齢化などによって、管理が行き届いていない山林が沢山ある。山林の整備は水源の確保にもつながることなので、若者が喜んで整備するような施策を打ってほしい。	(産業経済部長) 茅野市は財産区が持っている山がかなり多い。個人の方も森林の維持管理に非常に苦慮している。現在検討している森林整備計画の中でも、国の補助を活用して民有林の整備を計画している。

(北山地区) 民地の地籍調査について

意見要旨	説明・回答要旨
4、5年前から市で民有地の境界線の現地調査を行っていたと思うが、現状はどうなっているか。	(副市長) 今後大きな地震が発生する可能性が指摘されている中、災害時に境界線が分からなくなってしまうリスクがあるとして、糸魚川

	―静岡構造線上の泉野、玉川、そして宮川を調査している状況。 (建設課長) 茅野市は非常に土地が広いので、この調査が始まって十数年経過するが、数地区の調査しかできていない。数十年単位のお時間をいただく事業となるので、ご理解いただきたい。
--	--

(北山地区) 広域連携について

意見要旨	説明・回答要旨
今、6 市町村でフリースクールの分野で連携が始まっている。他の分野でも一つひとつ連携をしていくことで、信頼関係を築いていくことができると思う。厳しい時代だからこそ協働していくべきだと感じた。 痛みを伴う改革は、今後出てくると思うので、パートナーシップのまちづくりを意識していただいて、市民への丁寧な説明を今後お願いしたい。	(市長) 我々も 6 市町村でできることを一つひとつ探っていきたいと思う。

(北山地区) ゆいわーく茅野の利用について

意見要旨	説明・回答要旨
11 月にゆいわーく茅野でイベントを開催する予定だったが、3 階のフロア貸切りはしていないと説明があった。しかし、ゆいわーく茅野の夏祭りでは、どの階でも階段やフロアを貸し切っていたので、問い合わせたが、「運営者が主催なので使用できる」との回答があった。 パートナーシップということで、今後市民へ負担を求めていく中で、不必要な摩擦を生む必要があるのか。丁寧な対応をお願いしたい。	(市長) 日頃から丁寧な説明を心掛けるよう指導しているが、ご不快な思いをさせてしまい大変申し訳ない。内容について、精査する。

(北山地区) 学校のあり方について

意見要旨	説明・回答要旨
北山小学校は、全校で 100 人前後の生徒数だが、今後どんどん減っていったことが予想される。 現在の市としての学校のあり方のベストアンサーはどのようなものか。	(教育長) 2 月から保育園、小学校、中学校の保護者を対象に地域対話を行ってきた。延べ 26 回開催してきたが、我々が思ったほど参加者数が伸びなかった。いずれにしても、皆さんからいただいたご意見を一つひとつ大切にしていきたい。 茅野市は、4 中学校 9 小学校体制となって数十年経ち、その間も子どもの人数は増え続けていたが、平成 20 年以降、激減している。5 月 1 日現在の北山小学校の生徒数は、105 名で令和 13 年には 60 人台まで減ってしまう試算。減少率は、約 40%となっていて、令和 13 年以降も減少していくとされている。そうなった時に、4 中学校、9 小学校の体制がこれからの時代に合っているのかを考えていかなければならない。 教育委員会としては、子どもの学びの場、学校のあり方は、子どもの目線から考えていきたい。 具体的な時期は約束できないが、教育委員会として今後の学校体制のあり方について方向性を出すべきだと考えている。 そして、今回の検討を経て決めた体制が、今後の 50 年、60 年後の学校体制となってくともしっかりと意識して、検討していきたい。 (学校教育課長) 現状、ベストアンサーは無い。特に 40 代以下の皆さんにご意見を多くいただきたいと思っている。 教育委員会では、アンケートを通して意見を収集し、ベストアンサーを出していきたいと考えている。

(北山地区) 市からお願いしている諸役の人選について

意見要旨	説明・回答要旨
小さな区・自治会にとって、市から要請される諸役の人選には、毎年苦慮している。もう少し削減できないか。	(市長) 諸役の削減については、現在協議している。今までの反省点として、パートナーシップのまちづくり以前と以後の仕組みの中で、似たような内容の役職が存在している。また、公民館活動と市民活動も活動内容が同じようなものもある。 今後、人口が減少していく社会に対応していくために、役職をシンプルにしていく必要があると思っている。様々なご意見をいただければと思う。